

## 第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	子ども・若者相談事業			事業番号	08-102
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	子ども部	齋藤 浩人	青少年課	桑原 豊	

## 計 画 (Plan)

総合計画体系	暮らし力	まちづくり目標	1	誰もが明るく暮らせるまち	
		基本政策	2	子どもの成長をみんなで見守るまちづくり	
		施策展開の方向	4	子どもや若者の成長と自立を支えるまちをつくる	
		施策	8	次代を担う子ども・若者の育成支援の推進	
予算事業名	子ども・若者相談事業費 非行防止活動推進事業費				
事務区分〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 自治事務 <input type="radio"/> 法定受託事務    (選択してください)→		法令上の位置づけ	できる規定がある	
事業開始年度	開始年度	昭和52年度	～	終了年度	—
関連法令等	子ども・若者育成支援推進法				
国・県の計画等	かながわ青少年育成・支援指針	計画期間			
関連個別計画	伊勢原市子ども・若者育成支援指針、伊勢原市教育振興基本計画、子ども・子育て支援事業計画	計画期間			
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニート、ひきこもり、不登校、発達障害等の子ども・若者の抱える問題の深刻化</li> <li>・スマートフォンの利用によるトラブル、薬物問題、有害情報の氾濫等、子ども・若者をめぐる環境の悪化</li> <li>・子どもの貧困対策の必要性</li> </ul>				
目的 (何をどうしたいのか)	子ども・若者を対象とした相談や、課題を抱える子ども・若者の支援、非行防止活動等を実施します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	子ども・若者、困難を有する子ども・若者(0歳から概ね29歳まで)。就労に関する分野は39歳まで				
事業内容 (手段、手法など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、面談、メールにより、子ども・若者からの相談に対応するとともに、内容によっては適宜、関係専門機関へつなぐ役割を担います。</li> <li>・街頭パトロールを実施して、非行の早期発見と重症化防止に努めます。また、非行防止のための啓発チラシの配布やイベント等を実施します。</li> <li>・困難を有する子ども・若者(ひきこもり、ニート等)への対策として、神奈川県地域若者サポートステーションと連携を図ります。</li> </ul>				
事業行程	項目	年度			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	子ども・若者相談事業	実施	実施	実施	
	非行防止活動(街頭指導)	実施	実施	実施	
サポートステーション連携	セミナー開催	セミナー開催	セミナー開催		
目 標	【指標名】	年度			
	【現状値】	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
子ども・若者に関する相談件数	170件 (平成29年度)	170件	170件	170件	



事業実施 (Do)

**事業実施 (D○)**

<b>事業の「取組方針」</b> (前年度事務事業評価)					
<b>実施方法</b> 〔選択・記入〕	<input checked="" type="checkbox"/> すべて直接実施 <input type="checkbox"/> 左記以外				
	<input type="checkbox"/> 業務委託	<input type="checkbox"/> 指定管理	<b>委託先又は指定管理者</b>		
	<input type="checkbox"/> 補助金		<b>補助先</b>		
	<input type="checkbox"/> その他		<b>具体的内容</b>		
<b>実施結果</b>	<b>項目</b>	<b>年度</b>			
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	子ども・若者相談事業	継続実施			
	非行防止活動(街頭指導)	継続実施			
	サポートステーション連携	継続実施			
<b>実施した取組の内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年に関する相談を電話、面談、メールなどで受付、青少年相談員が対応しました。</li> <li>・街頭指導(非行防止パトロール、啓発キャンペーン)を青少年相談室補導員等と伴に実施しました。</li> <li>・県央地域若者サポートステーションと連携し、ひきこもりやニート等に対するセミナー及び相談会を行いました。</li> </ul>				
<b>目標の達成状況</b>	<b>【指標名】</b>	<b>年度</b>			
	<b>【現状値】</b>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
	子ども・若者に関する相談件数	170件 (平成29年度)	171件		

<b>コスト</b>	<b>年度</b>	<b>平成30年度 実績</b>				<b>令和元年度 実績</b>				<b>令和2年度 実績</b>				
	<b>事業費合計 (a)</b>		6,053	千円		0	千円		0	千円				
	<b>内訳</b>	国県支出金 ①	359	千円		0	千円		0	千円				
		地方債 ②	0	千円		0	千円		0	千円				
		その他特財 ③	0	千円		0	千円		0	千円				
		一般財源 (a)-①-②-③	5,694	千円		0	千円		0	千円				
	<b>国県支出金の内容</b>		市町村事業推進交付金 補助率: 県1/2、市1/2											
	<b>その他特財の内容</b>	受益者負担	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無				<b>前回の改定時期</b>							
		その他												
	<b>人件費</b>	正規職員	0.11	人	936	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		その他の職員	0	人	0	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
		人件費合計 (b)	0.11	人	936	千円	0	人	0	千円	0	人	0	千円
	<b>トータルコスト (a)+(b)</b>		6,989	千円		0	千円		0	千円				
	<b>単位当たりコスト</b>	<b>対象数</b>	定義	市民	単位				単位				単位	
			対象数	102,416	人									
総事業費 / 対象数		68	円					円				円		

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 計画どおり (A) <input type="radio"/> 概ね計画どおり (B) <input type="radio"/> 計画どおり進捗せず (C)	A	左記判断理由	電話や面談、メールなどで相談事業を推進しました。相談件数は、計画どおりでの推移が見られ県央地域若者サポートステーションと就労支援のための連携を図りながら適切な対応を行っています。
実施水準 〔選択・記入〕	<input type="radio"/> 他市より高い水準で実施 (A) <input checked="" type="radio"/> 他市と同水準で実施 (B) <input type="radio"/> 他市より低い水準で実施 (C) <input type="radio"/> 一律に比較できない事業	B	他都市事業内容等	近隣市(平塚市、秦野市、厚木市)においても、子ども・若者を対象にした相談、困難を抱える子ども・若者への支援、非行・被害防止活動を実施しています。
有効性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 高い (A) <input type="radio"/> 普通 (B) <input type="radio"/> 低い (C)	A	左記判断理由	子ども・若者やその家族の相談や非行の防止に寄与しています。
効率性 〔選択・記入〕	<input checked="" type="radio"/> 効率的に実施されている (A) <input type="radio"/> 改善の余地がある (B) <input type="radio"/> 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	青少年相談員及び補導員の対応や関係機関との連携を図り、効率的に実施されています。


 取組の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所屬長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	<input checked="" type="radio"/> 現状のまま継続 <input type="radio"/> 見直しの上継続	事業推進上の課題	子ども・若者をめぐる社会環境の変化や事件・事故等の発生などから継続的に相談や非行防止等の更なる推進が必要となります。
令和元年度の取組方針		県央地域若者サポートステーションと連携し、就労支援のためのセミナーや相談会などを実施していきます。また、青少年に関する相談業務を行うとともに、非行の早期発見、指導・助言による街頭指導や啓発キャンペーン等の充実に努めます。		
所管部長による総評		少子化や核家族化の進行などから、子ども・若者が他者に対する思いやりや社会性を身に付けることが難しくなっている中、子ども・若者のひきこもり、非行等の問題を抱え、支援を必要とする子ども・若者や、その家族のための相談に資する本事業の必要性は高いものと認められます。このため、相談事業や非行防止活動を継続するとともに、県央地域若者サポートステーションとの連携を図りながら、本事業を推進すべきと考えます。		